

北海道教育推進計画

2023 年度～2027 年度
(令和 5 年度～令和 9 年度)



北海道教育委員会

HOKKAIDO BOARD OF EDUCATION

「北海道教育委員会ロゴマーク」

北海道教育委員会を国内外に広くPRするとともに、北海道教育委員会におけるグローバル人材育成に向けた取組のより一層の推進を図るためのシンボルとして、北海道、北海道教育委員会及び子どもたちを象徴的に表現するロゴマークを2021(令和3)年1月に制定し、北海道教育委員会の事務・事業や広報活動等において広く使用しています。

(シンボルマークについて)

北海道の形状を抽象化し、三角形で構成された3つの集合体により、左から順に「山」、「大地」、「島々」を表しています。

「大地」の中心から各方向に伸びる白線は、世界に向けて開かれた北海道や、北海道教育委員会として子どもたちに身に付けてほしいと願う「ふるさとを想い、グローバルな視野で共に生きる力」を象徴するとともに、雪の結晶（六花）を想起させ、北海道のイメージとして親しみのある雪や氷を表現している。さらに、右上の「島々」も、空から降る雪の結晶を連想させるよう配置しています。

また、幾何学模様により「真摯さ」や「堅実さ」をイメージさせる一方、4つの色彩により、全体に温かく優しい印象を持たせている。色彩はそれぞれ、紺色が教育委員会の「誠実さ」や「知的さ」を、緑色が北海道の「雄大な山々・森林」や「癒しを与える優しさ」を、水色が「澄んだ空・海・川」や「爽やかさ」を、黄色が子どもたちの持つ「明るさ」や「親しみやすさ」、「好奇心」を象徴しています。



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、人々の価値観やワークスタイルが大きく変わる中、従来の知識や経験だけでは解を見いだすことが難しい時代となっており、こうした変化の激しい時代にあって、子どもたちが、未来において様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくためには、自らの良さや可能性を認識するとともに、全ての人を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手として成長していくことが必要であり、教育機関には、そのために必要な資質・能力を育てていくことが求められています。

こうした中、北海道教育委員会では、次代を担う子どもたちが、社会の変化に主体的に向き合いながら、自らの可能性を発揮し、未来を切り拓いていく力を身につけることができるよう、「自立」と「共生」の理念の下、「北海道教育推進計画」を策定し、各般の施策を進めてきました。

この度、新たな計画の策定に当たり、環境問題をはじめ世界規模の課題が進行する中、本道教育において SDGs・ESD を推進することにより、子どもたちが持続可能な社会の創り手として成長することや、GIGA スクール構想の下で急速に進んだ ICT の活用により、子どもたちの特性・環境等に応じた教育の実現や学校における働き方改革、関係者間の連携強化など、学びの環境がより一層充実することを目指すこととしました。

こうした考え方にに基づき、令和5年度から5年間の本道の教育施策の方向性を示すため、「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進」、「学びの機会を保障し質を高める環境の確立」、「地域と歩む持続可能な教育の実現」を柱とする本計画を策定したところであり、今後は学校・家庭・地域・行政による連携をこれまで以上に深めながら、本道教育の充実に全力で取り組んでまいります。

結びに、本計画の策定に当たり御協力いただきました北海道教育推進会議委員各位をはじめ、貴重な御意見をお寄せいただきました道民の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

2023(令和5)年3月

北海道教育委員会教育長 倉本博史